

# 学校法人 工学院大学

2017年度 事業報告書





学校法人工学院大学  
理事長 後藤 治

学校法人工学院大学は、2017年10月31日に創立130周年を迎えました。昨年度、八王子キャンパスの再開が完成しましたが、授業や研究活動を通して、多くの学生・生徒が新たな施設設備を有効かつ積極的に活用しており、非常に頼もしく感じています。ご寄附いただきました皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

私は、2017年5月に理事長に就任しました。その際、「国立の東工大、私立の工学院と呼ばれることを目指そう」と発信しました。国公立、私立を問わず学校間の生存競争が激化している昨今、本学独自のカラーをしっかりと持ち、強く発信していこうという主旨です。目標が明確になることで人材育成・研究・社会貢献度のレベルが上がり、生き残ることができると思います。

本学園では、創立150周年になる2037年に向けた長期ビジョンである「VISION150」に基づいて中期計画「コンパス2017」を策定し、2012年度から2017年度の6年間、課題を解決してまいりました。大学では先進工学部の新設（2015年）、情報学部への拡大（2016年）、附属中高では中学のハイブリッドクラスの開設（2015年）、学園全体でのガバナンス改革などが5年目までの主な施策です。

最終年度となる2017年度は、大学では先進工学部において新専攻（「航空理工学専攻」、「宇宙理工学専攻」）開設の準備を進めました（2019年4月新設）。附属高校では、「ハイブリッド4コース」の2018年4月スタートに向けて、附属中学での実績をもとに、高校での教育手法や内容をさらに充実させました。

中期計画「コンパス2017」の終了にあわせて、本学園は長期目標である「VISION150」を改定し、新中期計画「コンパス2023」を策定しました。工学院大学は、事業・実務をリードし、科学技術立国・日本における先端領域で創成能力を発揮する高度な技術者・研究者の育成を目指しています。工手学校に始まる歴史と社会での役割から、創造力や応用力、指導力、それらによって複数の分野を統合する、「現場」で指導力を発揮する人材の育成にこだわります。今後も、新たな知見や価値を創造する“21世紀型ものづくり”の先端で活躍するリーダーを育成する高等教育機関として、学生・生徒の確保はもちろんですが、寄付や研究費の獲得、大学院進学率、附属高校における大学進学実績など、学園経営においてあらゆる課題に対して、1.0を1.1にする改善を積み重ねていきたいと考えています。

## CONTENTS

|                 |    |
|-----------------|----|
| 2017年度事業の総括     | 2  |
| 2017年度学園の主な取り組み | 3  |
| 事業の概要           | 4  |
| Ⅰ. 大学・大学院       | 4  |
| Ⅱ. 附属中学校・高等学校   | 8  |
| Ⅲ. 学園全体         | 10 |
| 財務の概要           | 12 |
| 法人の概要           | 14 |
| DATA FILE       | 18 |

## 2017年度学園の主な取り組み

### ● 学園ブランドの強化

研究ブランディング事業の一環で設立されたソーラービークル研究センターにおける学生プロジェクト「ソーラーカープロジェクト」が、10月に豪州で行われた「Bridgestone World Solar Challenge」(ワールドソーラーチャレンジ)で、約3,000kmを完走し7位に入賞する等、学生活動が活発に行われました。11月には、「第16回 国際先端技術シンポジウムThe 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)」を本学で開催し、本学名誉博士で2010年にノーベル化学賞を受賞された根岸英一先生や海外協定校から多くの教員や学生にご参加いただき、基調講演、口頭発表やポスター発表を行いました。同時に開催したInnovation Big Westでは、本学の研究力を発信するためのシーズ展示イベントを行い、経済産業省やJST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)による講演会も行われました。

設備・施設面においては、八王子キャンパス2号館の本格稼働の他、新宿キャンパス地下のB-ICHIやKU-SITEの展示を一新し、発信力の強化を図りました。

英タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(Times Higher Education:THE)の「THE世界大学ランキング2018」、THEアジア大学ランキング2018、英クアックアレリ・シモンズ(Quacquarelli Symonds:QS)の「QSアジア大学ランキング2018」では本学が初めてランクインしました。いずれのランキングも研究力が高く評価されました。



ISAT-16



B-ICHIでの研究紹介

### ● 寄附行為改正を踏まえた学園の運営体制の強化

学校法人全体のガバナンス強化を目的に寄附行為を改正し、昨年度12月に施行しました。新たな寄附行為のもと、今年度5月に第23期理事会及び第23期評議員会が発足しました。学校法人の業務に関する最終意思決定機関である理事会及び運営に関する重要事項の諮問機関である評議員会は、機動的かつ、適正規模の適任者による経営体制を構築するため、役員、評議員の定数を減員し、理事9名、評議員32名の構成としました。

今年度3月で任期満了となる学長及び校長の選任を実施しました。工学院大学学長は、選任方法を改め、理事、教授、評議員で構成する学長候補者選考委員会が最終候補者1名を選考し、理事会の決議により、12月に選任しました。また、工学院大学附属中学校・高等学校の校長は、理事会の決議により、2月に選任しました。

さらに3月には、評議員会の同意を得て、第32期監事となる2名を選任しました。内1名は常勤監事とし、理事の業務執行を監査する機関の強化を図りました。次年度5月に開催する平成30年3月に終了する会計年度の決算及び事業の報告に関する評議員会の終結の時をもって監事が交代し、これにより、本法人の役員は、理事9名、監事2名の体制となります。

# I. 大学・大学院



工学院大学 学長 佐藤 光史

## 総括

今年度は、学部生1,390名、大学院生278名を受け入れ、年度末には学部生1,257名、大学院生240名に学位を授与できました。

学部及び大学院の三つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）、学生支援ポリシー、国際化推進の基本方針を公開し、大学の教育改革・改善を行っていく内部質保証システムが構築されました。

今年度においても、「イノベーション・ジャパン2017」では、私立大学ではトップの14件が採択される等、研究活動の活性化を順調に進めており、社会に広く情報発信しています。

学生団体の活躍も著しく、ソーラーカープロジェクトは、「ワールドソーラーチャレンジ」において、オーストラリア南北約3,000kmを完走し、7位入賞を果たしました。

また、2019年4月、先進工学部 機械理工学科に「航空理工学専攻」、応用物理学科に「宇宙理工学専攻」の2専攻を新たに設置することを公表しました。“21世紀型ものづくり”を支える理工系人材の育成と、先端領域で創成能力を発揮する高度な技術者・研究者を育成し、これからも、学生がもつ無限の可能性を引き出し、世界と協調して発展する科学技術立国・日本を支えていきます。

## 2 学生支援・キャリア支援・就職支援の充実

学生プロジェクト等、学生団体の支援に力を注ぎました。リーダー育成を目的とした「リーダーズ・キャンプ」を今年度も実施し、集団の中でのリーダーの役割、振る舞い等、ワークを交えて学びました。また、学生団体の活躍が著しく、ソーラーカープロジェクトは3大会連続で「ワールドソーラーチャレンジ」に、鳥人間プロジェクトWendyは7年ぶり5度目となる「鳥人間コンテスト」に、KRPは10年連続で「NHK学生ロボコン2017」に出場しました。

また、学生支援ポリシーを制定し、4月に公表しました。学内でポリシーに基づいた支援のあり方についての検討も開始しました。その一環として、「LGBT」のSD研修を行い、教職員への啓蒙と理解を図りつつ、新宿キャンパスにおいては多目的トイレを「みんなのトイレ」として増設しました。

就職支援では、学生の就職活動スケジュールが昨年度と変わらず、企業研究の十分な時間の確保が難しい傾向が続いていることから、学外研修を担当する学習支援課と共同でインターンシップ準備講座、ES対策を前期に開催する等、学生の早期からの職業観の醸成に引き続き力を注いでいます。新たな取り組みとしては、就職活動に出遅れてしまった学生をフォローするための『今から始める就活講座』や、地方への就職を希望する学生のための『UIターン就職のための学内合同企業説明会』、採用試験の一手法として用いられている「グループディスカッション」の実践講座を、他大学と合同で実施しました。



人カプロペラ機ディスタンス部門に出場したWendy



「デザイン賞」を受賞したKRP

## 1 組織的・体系的教育の実施（教育改革）

大学教育の質保証においては、自己評価の信頼性と妥当性を評価し、検証することに主眼が置かれています。自らの責任で大学の教育・学習・その他のサービスの質を維持、向上させるため、評価する仕組みのことを「内部質保証システム」といい、4月には、大学・大学院の三つの方針（アドミッションポリシー（入学者受入方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、ディプロマポリシー（学位授与の方針））の改訂版を公開し、加えて学生支援ポリシーも公開しました。

本学が掲げる目的の達成及び理念の実現のため、継続的な自己点検・評価を行い、改革・改善に努めることを通じて、大学の教育研究の水準を保証しつつ向上させ、社会からの信頼をより一層確実なものとするための評価検証機関として「内部質保証委員会」を設置し、教育評価改善委員会、学生支援委員会、入試広報戦略委員会を配置し、各種委員会体制を整備しました。それぞれの委員会において評価・改善を行ったうえで、内部質保証委員会が検証することで、教育研究における自己点検と改善に組織的に取り組みます。



就職ガイダンス



内定者による就活相談会

### 3 先鋭的な研究体制の確立

前年度11月文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に採択された、「巨大都市・複合災害に対する建築・情報学融合によるエリア防災活動支援技術の開発と社会実装」の研究は2年目になり、その成果を社会に向けて情報発信しています。

研究費全体については、科研費新規申請率が昨年までの79%から75%程度となりましたが、科研費採択奨励研究費制度やアドバイザー制度の効果で、高い数値で推移しています。外部資金導入状況は、科研費211百万円及び外部資金(受託等)403百万円で、合計614百万円となりました。

「イノベーション・ジャパン2017-大学見本市」では、私立大学ではトップの14件が採択され展示を行いました。この他に、「テクノトランスファーinかわさき2017」、「諏訪圏工業メッセ2017」、「Matching HUB KANAZAWA」に出展し、研究成果を発信しました。11月には、八王子キャンパスにて、JST(科学技術振興機構)、八王子商工会議所、多摩信用金庫、りそな中小企業振興財団の後援によりInnovation Big Westを開催し、経済産業省とJSTの担当者から講演いただきました。

その他、産学連携推進に関する協力協定を結んでいる多摩信用金庫とは「研究説明会」を学外で、りそな中小企業振興財団との「技術懇親会」は学内で開催しました。また、JSTが開催する「新技術説明会」には昨年に引き続き大学単独として参加し、4名の先生方の発表に対し86名の来場者がありました。

このように、研究成果の発信力の強化に努めるとともに、地域・産業界との連携の推進を図っています。



私立大学研究ブランディング事業(エリア防災)成果報告会



イノベーション・ジャパン2017



JST「新技術説明会」



多摩信用金庫「研究説明会」

### 4 学生の国際化の推進

独自の留学プログラム「ハイブリッド留学」は、第21回日本工学協会工学教育賞及び関東工学協会賞の両賞を受賞しました。イギリス・アメリカの他、今年度はニュージーランドも新規留学先として加わり、3カ国でハイブリッド留学を実施し、参加者は100名を超えました。その他、語学研修(中国・北京航空航天大学、アイルランド・リムリック大学)、学生交換留学協定(イタリア・ベネチア建築大学、アメリカ・ハーヴィーマッド大学、ベトナム・ダナン工科大学等)により、学生を派遣しました。

海外協定校からの学生の受入れとして、ベネチア建築大学、チュラロンコン大学、マヒドン大学、北京航空航天大学、南台科技大学、ダナン工科大学等から学生を受け入れ、研究交流等を実施しました。この他、協定校からの日本留学にきた留学生をサポートするプログラム(CAP)に多くの学生が参加し、異文化理解を深め、学生の国際化の動機付けとなりました。

JSTにおける日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)に3件採択され、計26名の学生を3カ国、地域から招聘し、学術交流を推進しました。

また、日本語研修課程「留学生別科」には、ベトナム、中国、台湾、スリランカからの留学生36名が在籍しています。



ニュージーランドでのハイブリッド留学



留学生別科修了式

### 5 社会のニーズに応じた教育体系の拡充

科学技術立国・日本における“21世紀型ものづくり”を支える理工系人材の育成と、先端領域で創成能力を発揮する高度な技術者・研究者を育成すべく、2019年4月に先進工学部に以下の2専攻を新設することを公表しました。

機械理工学科には、本学初となるパイロットの資格取得を目指す「航空理工学専攻」を開設し、工学と操縦技術を兼ね備えた“エンジニア・パイロット”の養成を行います。また、応用物理学科に開設される「宇宙理工学専攻」は、理工学の幅広く高度な知識を備え、将来、拡大が予測される宇宙産業に貢献できる人材の育成を目指します。

### 6 中高大院一貫教育体制の構築

高大接続改革は、高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体改革を目指すものであり、今後ますます高等学校教育と大学教育の接続や連携の強化が重要視されています。こうした状況の中、附属高等学校と連携し、「学びの接続」の実現を目指すため、入試方法を見直し、入学前教育を実施しました。

また、公表した三つのポリシーは、大学、大学院の接続を考慮し策定したものです。大学院の教育改革においては、学部、大学院の接続を考慮して専門性とともにも多様性にも対応できる人材育成をするため、柔軟なカリキュラムの検討を開始しました。

## Ⅱ. 附属中学校・高等学校



工学院大学附属中学・高等学校 校長 平方 邦行

### 総括

附属中学校・高等学校では、4月に中学生113名、高校生264名が入学し、3月には中学生94名、高校生309名が卒業しました。

急速に進展するグローバル化の中で、中学校は「多文化」「多言語」を意識した教育を推進するために「ハイブリッド」という冠をつけた特色ある3つのクラスを昨年度スタートし、2年目となります。それは「未来志向の学校」でありたいと同時に、「未来志向の受験生に対し決して裏切らない学校」であり続ける、という覚悟の証明でもあります。学校説明会では、「自己肯定感」を持てる若者を育成し、「未来に備える」教育を行うことを具体的に訴えてきました。その教育に賛同し入学した生徒達を大切にしたいという思いを込めて、「21世紀型教育」を展開しています。

特に、ICT機器による対話型のPIL、問題解決型のPBLといった双方向型授業は、内制化した教員研修等で授業力の向上を図るとともに、各授業で実践しています。

また、グローバル化に対応した行事として、中学3年生全員が参加するオーストラリア3週間異文化体験研修、高校生のオーストラリア3カ月短期留学、シアトルサマーカーンプ、ハワイ異文化体験研修、フィリピンセブ英語研修、フィリピンとベトナムの社会課題を解決する研修、そして日本国際協力センターが主催する東ティモール高校生派遣プログラムを今年度は実施しました。計144名(12%)の生徒が参加しました。

今後も挑戦・創造の精神をもって、グローバルシチズンシップに根ざした世界市民として社会に、そして世界に貢献していく若者を育成していきます。

### 1 「21世紀型教育」の実現（教育改革）

「21世紀型教育」を体系的に実現するため、中学校に3つのクラス（ハイブリッドインターナショナル、ハイブリッド特進、ハイブリッド特進理数）を設置し、今年度で3年経ちました。入学試験では従来までの2科・4科・英語・思考力に加え新たにCreativity入試も実施しました。

教育の重心を英語に据え、理科や数学にも力を入れた教科教育に加え、これからの社会で必要とされる、豊かで柔軟な発想力や、仲間と共創しながら思考する力を育成することを重視した「デザイン思考」という授業も実施しています。また、ICT教育に不可欠なタブレットを中学生全員に貸与し、対話型のPILや問題解決型のPBLといった双方向型授業を本格的に実施しています。

また、今年度より高等学校にインターナショナルクラスを設置し、週1日新宿キャンパスで授業を実施しています。ネイティブ教員による哲学や第二外国語の授業として中国語の授業も実施しています。



大学新宿キャンパスでの授業風景



カンボジアでの課題解決型研修

### 2 教員の教育力向上

教育改革の推進のためには、常に教員も「学習者」であり続けなくてはならないため、若手・中堅教員が中心となり「Qチーム」を結成し、2020年大学入試改革で予想される大学入試問題の研究を通して、授業のGrowth Mindsetに取り組む研修を毎月行いました。また教員全体研修では同志社女子大学上田信行先生による「Growth Mindsetを育てるワークショップ型授業デザインの方法」という研修や、ICT実務研修も2回実施しました。

外部での研修では、昨年に引き続き東京都私学財団の「私立学校外国語教員海外派遣研修事業助成金」を利用し1名の教員が海外研修に参加しました。また、多くの教員が予備校（駿台・河合塾）で実施された大学入試に関する研修にも参加しました。

### 3 生徒の学力向上と学習環境の整備

シラバスは、授業⇒テスト⇒評価がセットになっており、本校独自の思考コードというモノサシに基づいてデザインされており、授業は知識論理型思考から論理創造型思考の養成へ質が転換されています。

日本初のCambridge English Schoolに認定され、英語の教科書はケンブリッジ大学出版発行の教材Uncoverを採用しています。Uncoverは身近な話題から社会問題まで多彩なTopicを取り上げており、4技能をバランスよく習得できる構成になっています。またケンブリッジ大学英語検定も行っており、国際基準による「Reading」「Writing」「Listening」「Speaking」4技能のレベルチェックに活用しています。

このように教材と試験の両面でケンブリッジとの連携をより一層図りながら、英語教育をさらに強化させていきます。

### 4 よりよい学習環境に向けた施設・設備の整備

ICT環境に関して、昨年度まではPC教室を中心に運用されてきましたが、昨年度すべての教室にWi-Fiを設置し、貸し出し用のiPad60台、ノートPC100台を用意したことで、すべての授業で利用が可能となりICT教育の新たなスタイルができあがりました。次年度からは高校新入生全員がBYOD方式でのノートPCの運用を始めるのでICT活用のさらなるレベルアップが見込まれます。教職員は深化するICTに対応した実務研修を実施しています。さらにICT活用を深めるために、レーザープリンターやレーザーカッター、デジタルミシンを設置し、興味のある生徒には自由に使える環境を整えました。

### 5 国際交流の推進

10月にオーストラリアの大学5校による留学説明会を行いました。今回はBond University（ゴールドコースト）、Griffith University（ブリスベン、ゴールドコースト）、The University of Western Australia（西オーストラリア）、University of Technology Sydney & UTS Insearch（シドニー）、Trinity College, The University of Melbourne（メルボルン）の5大学で、各校のプレゼンでは学校の特徴はもちろん、オーストラリアの大学へ進学するためのノウハウ等の説明もありました。

毎年中学3年生全員が参加する海外異文化体験研修は、8月に3週間オーストラリア・アデレードで実施し94名が参加しました。9月下旬にはアデレードのグリーンソン高校の生徒10名の短期ホームステイを受け入れました。また、東京都の「私立高等学校海外留学推進助成事業」を活用した海外留学もアデレードとブリスベンで実施し、9名の高校生が参加しました。この他、フィリピン・セブ島での語学研修に23名、マルタ共和国・マルタ島での語学研修に11名が参加しました。また一昨年はインドネシアで、昨年度はベトナムとフィリピンで課題解決型研修を実施しましたが、今年度はカンボジアでの研修に中学3年生と高校1年生合わせて10名が参加しました。

環太平洋模擬国連の参加も今年が3回目となり、3月に高校生2名が参加しました。この模擬国連はUCLAの学生が運営の中心となって行われ、国内で行われる模擬国連の中でもレベルの高い大会です。本校の生徒も海外からの参加者に交じって討論し活躍していました。

# Ⅲ. 学園全体

## 1 業務改革の推進

ICTを活用した業務の簡素・合理化・標準化に向け、新宿キャンパスにおいて一般教室・会議室のAV装置の全面リニューアルを実施しました。システム起動は教職員身分証を利用する方式を採用することにより、従来の鍵貸与方式に比べ利用者の手間が大幅に減りました。

運用面においても、デジタルワイヤレス通信・レーザー光源プロジェクタ等最新の機器を導入することにより大幅な合理化を図りました。さらに従来は、授業の際に使用する教材やコンテンツをその都度持ち込む必要がありましたが、情報科学研究教育センター内のサーバーと情報共有が可能になり、これらを持ち運ぶことなく利用できる環境を構築しました。これにより、情報セキュリティ面での改善も図っています。

また、業務の簡素・合理化・標準化を進めるべく、学園の事務業務システムの効果的な活用のためのプロジェクトチームを組み、新システムに移行する計画を立案し、全学的な分析に着手しました。次年度以降、最適なシステムの入替えを進めていきます。

情報セキュリティについては、ランサムウェア等、学園にとって脅威となる話題を盛り込んだ研修を、年度内に2回実施しました。昨年度より受講率が向上し、学園で発生したインシデント数を昨年度の半分に削減することができました。

キャンパス内外の「安心・安全」(セキュリティ)の確保と強化については、大規模震災時の初動対応を強化した「初動対応マニュアル」を策定しました。今年度の防災訓練では、このマニュアルに基づき、地震発生後、速やかに初動対応本部を設置して、情報を収集・把握し、人的被害・設備被害に対応する訓練を実施しました。また、火災に対する訓練・研修も実施し、さらなる防災体制の強化に努めました。

なお、新宿キャンパスの制振工事・リニューアルへの準備と併せて行う新宿・八王子の施設整備の進め方について、2020年度までに実施する主要な施設整備プロジェクトについての基本方針を策定しました。有効スペース創出を念頭に置いて、昨年度に引き続きファイリングシステムを推進し、ファイリングシステムのPDCAサイクルを定着させ、施設・設備の有効利用を図りました。

## 2 教職員の人事政策の確立—経営環境を見据えた教職員数の中期計画の策定と実施

昨年度に引き続き、学園全体の中期の財務状況を踏まえて、教員、職員各々に予算枠を設定して、総人件費管理を進めました。

教員については、昨年度に導入した大学・中高における教育改革を推進するための教員人事評価制度の定着を図りました。

職員については、2014年度に導入した人事制度の定着を図るために、引き続き、育成のための積極的なジョブローテーションを推進するとともに、今年度は管理職に対し、公正公平な視点で評価が行えるようにするため、評価目線合わせをねらいとした評価者研修を実施しました。

## 3 財務体質の強化

今年度は、第1期中期計画「コンパス2017」の最終年度で、総仕上げに向けた投資と、次年度以降に始まる中期計画の橋頭堡となる案件への投資を図りました。具体的に言えば、施設・設備では、昨年度までに渡る大口投資であった八王子キャンパス整備事業(新2・4号館新築事業)が、計画通り完了した後、学内の安心・安全に向けた耐震工事等、施設・設備の充実、及び学生サービスに繋がる施策への投資を加速しました。

「コンパス2017」で継続的に注力してきた財務体質の強化により、上記投資については、すべて自己資金にて対応するとともに、近い将来に計画されている新宿キャンパス・リニューアルに向けても、自己資金にて対応すべく、無理(ムリ)・無駄(ムダ)・斑(ムラ)を排除し、効率的でかつ計画的な資金配分による予算運営を実施しました。

## 4 130周年寄付金

2015(平成27)年11月から開始した創立130周年記念事業金は、2018(平成30)年3月末日をもって終了しました。この周年事業募金の締めくくりと募金事業にご協力を賜った皆様方出席のもと、3月30日に寄付者銘板除幕式を執り行いました。

今後も、学生・生徒の創造活動を継続して支援していくため、校友(卒業生)、ご父母、企業・団体等との連携を深め、学園のブランド力をさらに高めるための恒常的募金活動を展開していきます。



寄付者銘板除幕式

## 5 コンパス2017の総括と次期中期計画の策定

2012年度からスタートした第1期中期計画「コンパス2017」は、途中2014年度の見直しを経て、毎年の事業計画の策定・実施過程をリードしてきましたが、今年度、最終年度を迎えました。この6年間で、「社会のニーズに応じた学部等の再編」や「先鋭的な研究体制の確立」(大学)、「21世紀型教育の実現」(附属中高)、「よりよい学習環境に向けた施設・設備の整備」(学園全体)において、特に大きな成果が上がりました。

また、第23期理事会のもとで、学園創立150周年に向けてのビジョンをとりまとめた「VISION150(2012年4月策定)」の改定を図り、次年度に向けて第2期中期計画「コンパス2023(2018年度～2023年度)」の策定を行いました。

## 6 社会貢献事業の継続的展開

八王子商工会議所と2017年10月に包括連携協定を締結しました。「ものづくり」の街で、町おこしも視野に入れた研究・商品開発、学生の就職先開拓が見込まれます。八王子市と「科学教室」を共催、大学コンソーシアム八王子の事業である「学生発表会」では、最終選考会で情報学部学生が登壇し奨励賞を受賞し、加えて本学学生提案10件が優秀賞などを受賞しました。

新宿地域では、新宿十二社商店親睦会とCYBER12社活動を開始しました。2020年東京オリンピック開催を前に、海外のお客様に新宿の魅力を情報学部の知見を活用して発信します。新宿駅周辺防災対策協議会主催のイベント「防災WEEK2017」では、本学の企画・声がかけて「新宿ならではの「炊き出し」」を初開催し、新宿調理師専門学校との協力し約300人に非常食をふるまいました。



大学コンソーシアム八王子「学生発表会」



「新宿ならではの「炊き出し」」の様子

決算概要

2017年度決算概要について報告します。

1. 事業活動収入について

- (1) 学生生徒等納付金は、在籍学生・生徒数微減に伴い若干減少。
- (2) その他の収入項目については、ほぼ前年並みと安定。

2. 事業活動支出について

- (1) 教育研究経費は、学生創造活動(2017年世界大会第7位ソーラーカーチーム等)への支援を拡大、また、安心・安全、魅力ある校舎を標榜し、校舎外壁シール等の補修・修繕、内装工事を実施したことにより増加。
- (2) また、八王子キャンパス2号館・4号館の竣工により減価償却額が増加。

3. 特別収入

資金運用資産の売却による資産売却差額、また、学校施設耐震改修事業に係る補助金を計上。

4. 収支状況について

- (1) 収入がほぼ横ばいであるのに対し、支出が増加したことにより、収支状況は、前年度比若干減少。
- (2) 第2号基本金は、計画通り17億円を計上。

■ 事業活動収支計算書

|               |          |                  |               |
|---------------|----------|------------------|---------------|
| 教育活動収支        | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金         | 9,601         |
|               |          | 手数料              | 422           |
|               |          | 寄付金              | 119           |
|               |          | 経常費等補助金          | 1,356         |
|               |          | 付随事業収入           | 463           |
|               |          | 雑収入              | 438           |
|               |          | <b>教育活動収入 計</b>  | <b>12,399</b> |
|               | 事業活動支出の部 | 人件費              | 5,972         |
|               |          | 教育研究経費           | 4,976         |
|               |          | 管理経費             | 1,155         |
|               |          | 徴収不能額等           | 5             |
|               |          | <b>教育活動支出 計</b>  | <b>12,108</b> |
|               |          | <b>教育活動収支差額</b>  | <b>291</b>    |
| 教育活動外収支       | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金         | 35            |
|               |          | その他の教育活動外収入      | 90            |
|               |          | <b>教育活動外収入 計</b> | <b>125</b>    |
|               | 事業活動支出の部 | 借入金等利息           | 0             |
|               |          | その他の教育活動外支出      | 0             |
|               |          | <b>教育活動外支出 計</b> | <b>0</b>      |
|               |          | <b>教育活動外収支差額</b> | <b>125</b>    |
|               |          | <b>経常収支差額</b>    | <b>416</b>    |
| 特別収支          | 事業活動収入の部 | 資産売却差額           | 300           |
|               |          | その他の特別収入         | 152           |
|               |          | <b>特別収入 計</b>    | <b>452</b>    |
|               | 事業活動支出の部 | 資産処分差額           | 34            |
|               |          | その他の特別支出         | 0             |
|               |          | <b>特別支出 計</b>    | <b>34</b>     |
|               |          | <b>特別収支差額</b>    | <b>418</b>    |
|               |          | [予備費]            | -             |
| 基本金組入前当年度収支差額 |          |                  | 834           |
| 基本金組入額合計      |          |                  | △ 1,700       |
| 当年度収支差額       |          |                  | △ 866         |
| 前年度繰越収支差額     |          |                  | 2,460         |
| 基本金取崩額        |          |                  | 906           |
| 翌年度繰越収支差額     |          |                  | 2,500         |
| (参考)          |          |                  |               |
| 事業活動収入 計      |          |                  | 12,976        |
| 事業活動支出 計      |          |                  | 12,142        |

※百万円未満四捨五入

|          |                        |
|----------|------------------------|
| 学生生徒等納付金 | 授業料、入学金、教育充実費、実験実習料等   |
| 手数料      | 入学検定料、証明手数料等           |
| 寄付金      | 学園振興資金寄付金、指定寄付金、奨学寄付金等 |
| 経常費等補助金  | 国庫補助金、地方公共団体補助金等       |
| 付随事業収入   | 受託事業収入、収益事業からの繰入収入等    |

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 人件費    | 教員人件費、職員人件費等                |
| 教育研究経費 | 教育研究活動に直接支出される経費、勉学環境の維持費用等 |
| 管理経費   | 学生募集経費、その他管理部門の経費           |

■ 資金収支計算書

|      |                |               |      |                |               |
|------|----------------|---------------|------|----------------|---------------|
| 収入の部 | 学生生徒等納付金収入     | 9,601         | 支出の部 | 人件費支出          | 6,039         |
|      | 手数料収入          | 422           |      | 教育研究経費支出       | 2,973         |
|      | 寄付金収入          | 117           |      | 管理経費支出         | 1,056         |
|      | 補助金収入          | 1,466         |      | 借入金等返済支出       | 0             |
|      | 資産売却収入         | 300           |      | 施設関係支出         | 654           |
|      | 付随事業・収益事業収入    | 553           |      | 設備関係支出         | 1,689         |
|      | 受取利息・配当金収入     | 35            |      | 資産運用支出         | 9,833         |
|      | 雑収入            | 437           |      | その他の支出         | 930           |
|      | 借入金等収入         | 0             |      | [予備費]          | -             |
|      | 前受金収入          | 3,024         |      | 資金支出調整勘定       | △ 1,573       |
|      | その他の収入         | 8,263         |      | 翌年度繰越支払資金      | 8,435         |
|      | 資金収入調整勘定       | △ 3,269       |      | <b>支出の部 合計</b> | <b>30,036</b> |
|      | 前年度繰越支払資金      | 9,087         |      |                |               |
|      | <b>収入の部 合計</b> | <b>30,036</b> |      |                |               |

※百万円未満四捨五入

■ 貸借対照表

| 科目    | 年度末                  | 2012年度        | 2013年度        | 2014年度        | 2015年度        | 2016年度        | 2017年度        |
|-------|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
|       |                      | 決算額           | 決算額           | 決算額           | 決算額           | 決算額           | 決算額           |
| 資産の部  | 固定資産                 | 66,685        | 67,530        | 67,367        | 67,529        | 67,962        | 70,618        |
|       | 流動資産                 | 6,637         | 7,138         | 8,033         | 9,259         | 9,967         | 8,883         |
|       | <b>資産の部合計</b>        | <b>73,322</b> | <b>74,668</b> | <b>75,400</b> | <b>76,788</b> | <b>77,929</b> | <b>79,501</b> |
| 負債の部  | 固定負債                 | 3,913         | 4,243         | 3,984         | 3,720         | 3,648         | 4,196         |
|       | 流動負債                 | 2,455         | 2,974         | 3,308         | 3,979         | 4,053         | 4,243         |
|       | <b>負債の部合計</b>        | <b>6,368</b>  | <b>7,217</b>  | <b>7,292</b>  | <b>7,699</b>  | <b>7,701</b>  | <b>8,439</b>  |
| 純資産の部 | 第1号基本金               | 59,226        | 59,092        | 59,910        | 62,199        | 66,470        | 65,564        |
|       | 第2号基本金               | 6,715         | 7,179         | 6,726         | 4,087         | 6             | 1,706         |
|       | 第3号基本金               | 581           | 581           | 581           | 581           | 581           | 581           |
|       | 第4号基本金               | 711           | 711           | 711           | 711           | 711           | 711           |
|       | 翌年度繰越収支差額            | △ 279         | △ 112         | 180           | 1,512         | 2,460         | 2,500         |
|       | <b>純資産の部合計</b>       | <b>66,954</b> | <b>67,451</b> | <b>68,108</b> | <b>69,090</b> | <b>70,228</b> | <b>71,062</b> |
|       | <b>負債の部及び純資産の部合計</b> | <b>73,322</b> | <b>74,668</b> | <b>75,400</b> | <b>76,788</b> | <b>77,929</b> | <b>79,501</b> |

※百万円未満四捨五入

学校法人会計の計算書類について

■ 事業活動収支計算書

当年度の事業活動収入と事業活動支出の内容及び収支の均衡を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であることを示すものです。企業会計の損益計算書に相当します。

■ 資金収支計算書

当年度の教育研究活動に対応するすべての資金の収入・支出の内容を明らかにし、支払資金の収支の顛末を明らかにするものです。消費収支計算書にない施設設備投資額が含まれます。企業会計のキャッシュ・フロー計算書に相当します。

■ 貸借対照表

一定時点(決算日)における資産及び負債、基本金、事業活動収支差額の内容・有り高を明示し、学校法人の財務状況を明らかにするものです。

建学の精神

「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神とグローバル展開」

工学院大学は、工業化が急ピッチで進む1887(明治20)年の開学以来、「製造業などの発展に伴う社会・産業界のニーズ」と「最先端の工学研究という学問の発展」をつなぐ専門性の高い技術者育成の場として、10万人を超えるものづくりの担い手を世の中に送り出してきました。

グローバル化がますます進展する21世紀社会においても、「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神」を深化・発展させ、事業・実務でリードし、科学技術立国・日本における21世紀型ものづくりを支える理工系人材の育成及び 先端領域で創成能力を発揮する高度な技術者・研究者を育成する拠点として成長し続けます。

学園の沿革

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 1887(明治20)年<br>10月31日 | 帝国大学総長渡辺洪基を中心として工手学校設立協議会を開き、設立趣意書を発表  |
| 1888(明治21)年           | 工手学校開校式を挙行、築地にて授業を開始   |
| 1928(昭和 3)年           | 東京市淀橋町大字角筈(現新宿敷地)に新校舎が竣工し、校名を工学院と名称変更  |
| 1944(昭和19)年           | 工学院工業学校を設置、工学院工業専門学校を設置  |
| 1945(昭和20)年           | 工学院工業学校を工学院第一工業学校と名称変更   |
| 1946(昭和21)年           | 工学院第二工業学校を設置   |
| 1947(昭和22)年           | 工学院第一中学校、第二中学校を設置  |
| 1948(昭和23)年           | 学制改革により、新制高等学校として工学院高等学校を設置(第一、第二工業学校は廃止)<br>工学院第一中学校を工学院中学校に名称変更(第二は募集停止)               |
| 1949(昭和24)年           | 工学院大学を設置(工学部 第一部(昼)・第二部(夜))<br>工学院大学開設に伴い「工学院大学中学校」、「工学院大学高等学校」と名称変更<br>工学院を工学院専修学校と名称変更 |
| 1950(昭和25)年           | 工学院工業専門学校を廃止、工学院大学短期大学部を設置   |
| 1951(昭和26)年           | 工学院専修学校を工学院大学専修学校と名称変更   |
| 1956(昭和31)年           | 工学院大学短期大学部を廃止  |
| 1958(昭和33)年           | 工学院大学中学校を廃止<br>工学院大学に工学専攻科を設置  |
| 1963(昭和38)年           | 八王子市中野町に八王子キャンパスを開設  |
| 1964(昭和39)年           | 工学院大学に大学院工学研究科修士課程を設置  |
| 1966(昭和41)年           | 工学院大学に大学院工学研究科博士課程を設置  |
| 1977(昭和52)年           | 工学院大学専修学校を工学院大学専門学校に名称変更   |
| 1986(昭和61)年           | 工学院大学第二部を募集停止  |
| 1989(平成 元)年           | 新宿キャンパスに高層棟が竣工   |
| 1991(平成 3)年           | 工学院大学第二部の学生募集再開  |
| 1992(平成 4)年           | 工学院大学高等学校を「工学院大学附属高等学校」と名称変更<br>新宿キャンパスに中層棟・オフィス棟が竣工                                     |
| 1995(平成 7)年           | 新宿キャンパスに工学院大学エステック広場が落成  |
| 1996(平成 8)年           | 工学院大学附属中学校を再開  |
| 2001(平成13)年           | 八王子市中野町に中学校新校舎が竣工  |
| 2002(平成14)年           | 附属中学校・高等学校を男女共学化   |
| 2006(平成18)年           | 学部改組により情報学部及びグローバルエンジニアリング学部を設置<br>八王子市中野町に高等学校新校舎が竣工                                    |
| 2009(平成21)年           | 工学院大学専門学校を廃止   |
| 2011(平成23)年           | 学部改組により建築学部を設置   |
| 2015(平成27)年           | 学部改組により先進工学部を設置、グローバルエンジニアリング学部及び工学部第二部の募集停止   |

創立者  
渡辺 洪基



プロフィール

1847(弘化4)年福井県生まれ。24歳で岩倉具視遣外使節団に随員として加わって以来、外交官、東京府知事、衆議院議員等を歴任。1886(明治19)年に39歳で初代帝国大学(現在の東京大学)総長となり、産業発展のためには実践的技術者育成が急務と痛感し、翌1887(明治20)年、東京築地に工学院大学の前身である工手学校を設立。明治以降の我が国の工業化の礎を築いた。

設置する学校の内容

| 学校名                                 |             | 学部・学科名等                  | 入学定員                      | 入学者数                  | 編入学者数        | 収容定員         | 在学者数         |     |
|-------------------------------------|-------------|--------------------------|---------------------------|-----------------------|--------------|--------------|--------------|-----|
| 大学院                                 | 工学研究科博士後期課程 | 機械工学専攻                   | 3                         | 1                     | -            | 9            | 3            |     |
|                                     |             | 化学応用学専攻                  | 3                         | 4                     | -            | 9            | 10           |     |
|                                     |             | 情報学専攻                    | 3                         | 2                     | -            | 9            | 3            |     |
|                                     |             | 電気・電子工学専攻                | 3                         | 1                     | -            | 9            | 3            |     |
|                                     |             | 建築学専攻                    | 3                         | 4                     | -            | 9            | 9            |     |
|                                     | 工学研究科修士課程   | 機械工学専攻                   | 60                        | 73                    | -            | 120          | 149          |     |
|                                     |             | 化学応用学専攻                  | 50                        | 35                    | -            | 100          | 78           |     |
|                                     |             | 電気・電子工学専攻                | 40                        | 55                    | -            | 80           | 101          |     |
|                                     |             | 情報学専攻                    | 30                        | 24                    | -            | 60           | 43           |     |
|                                     |             | 建築学専攻                    | 60                        | 74                    | -            | 120          | 142          |     |
|                                     |             | システムデザイン専攻               | 20                        | 5                     | -            | 40           | 11           |     |
| <b>大学院合計</b>                        |             |                          | <b>275</b>                | <b>278</b>            | <b>-</b>     | <b>565</b>   | <b>552</b>   |     |
| 先進工学部                               | 大学院合計       | 生命化学科                    | 70                        | 74                    | -            | 210          | 222          |     |
|                                     |             | 応用化学科                    | 95                        | 86                    | -            | 285          | 292          |     |
|                                     |             | 環境化学科                    | 70                        | 72                    | -            | 210          | 229          |     |
|                                     |             | 応用物理学科                   | 65                        | 64                    | -            | 195          | 180          |     |
|                                     |             | 機械理工学科                   | 65                        | 59                    | -            | 195          | 201          |     |
|                                     |             | <b>合計</b>                | <b>365</b>                | <b>355</b>            | <b>-</b>     | <b>1,095</b> | <b>1,124</b> |     |
|                                     | 工学院大学       | 学部合計                     | 機械工学科                     | 154                   | 150          | 0            | 574          | 607 |
|                                     |             |                          | 機械システム工学科                 | 105                   | 110          | 1            | 390          | 440 |
|                                     |             |                          | 応用化学科 <sup>*2</sup>       | -                     | -            | -            | 130          | 160 |
|                                     |             |                          | 環境エネルギー化学科 <sup>*2</sup>  | -                     | -            | -            | 105          | 126 |
| 電気電子工学科 <sup>*4</sup> (旧:電気システム工学科) |             |                          | 120                       | 119                   | 3            | 440          | 457          |     |
| 工学部第1部                              |             | 情報通信工学科 <sup>*3</sup>    | -                         | -                     | -            | 200          | 231          |     |
|                                     |             | 建築学科 <sup>*1</sup>       | -                         | -                     | -            | -            | 2            |     |
|                                     |             | 建築都市デザイン学科 <sup>*1</sup> | -                         | -                     | -            | -            | 2            |     |
|                                     |             | <b>合計</b>                | <b>379</b>                | <b>379</b>            | <b>4</b>     | <b>1,839</b> | <b>2,025</b> |     |
|                                     |             | 学部第2部 <sup>*2</sup>      | 情報通信メディア工学科 <sup>*2</sup> | -                     | -            | -            | 50           | 22  |
| 建築学科 <sup>*2</sup>                  | -           |                          | -                         | -                     | 50           | 30           |              |     |
| <b>合計</b>                           | <b>0</b>    |                          | <b>0</b>                  | <b>0</b>              | <b>100</b>   | <b>52</b>    |              |     |
| 建築学部                                | まちづくり学科     |                          | 85                        | 65                    | 1            | 325          | 328          |     |
|                                     | 建築学科        |                          | 145                       | 153                   | 0            | 510          | 594          |     |
|                                     | 建築デザイン学科    | 115                      | 127                       | 1                     | 420          | 493          |              |     |
|                                     | <b>合計</b>   | <b>345</b>               | <b>345</b>                | <b>4<sup>*5</sup></b> | <b>1,255</b> | <b>1,415</b> |              |     |
|                                     | 情報学部        | 情報通信工学科                  | 90                        | 88                    | -            | 180          | 182          |     |
| コンピュータ科学科                           |             | 90                       | 99                        | -                     | 400          | 444          |              |     |
| 情報デザイン学科                            |             | 70                       | 66                        | -                     | 360          | 410          |              |     |
| システム数理学科                            |             | 60                       | 58                        | -                     | 120          | 114          |              |     |
| <b>合計</b>                           |             | <b>310</b>               | <b>311</b>                | <b>0</b>              | <b>1,060</b> | <b>1,150</b> |              |     |
| グローバルエンジニアリング学部 <sup>*2</sup>       | 学部合計        | 機械創造工学科 <sup>*2</sup>    | -                         | -                     | -            | 70           | 76           |     |
|                                     |             | <b>合計</b>                | <b>0</b>                  | <b>0</b>              | <b>0</b>     | <b>70</b>    | <b>76</b>    |     |
| <b>大学合計</b>                         |             |                          | <b>1,399</b>              | <b>1,390</b>          | <b>8</b>     | <b>5,419</b> | <b>5,842</b> |     |
| 工学院大学附属高等学校                         | 全日制課程       | 普通科                      | 290                       | 264                   | 1            | 870          | 896          |     |
| 工学院大学附属中学校                          |             |                          | 105                       | 116                   | 2            | 315          | 311          |     |
| <b>総合計</b>                          |             |                          | <b>2,069</b>              | <b>2,048</b>          | <b>11</b>    | <b>7,169</b> | <b>7,601</b> |     |

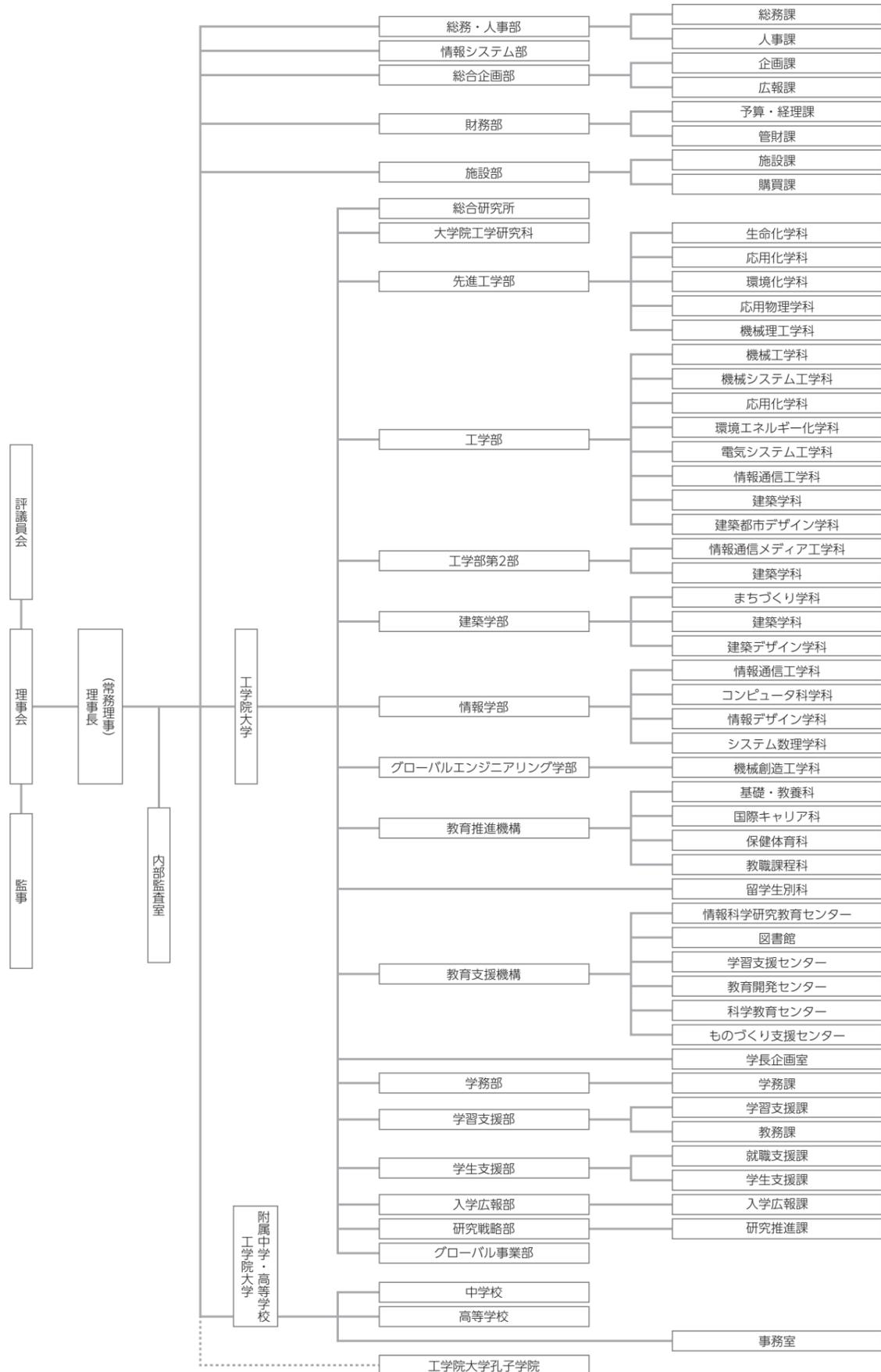
※1 2011年度募集停止  
 ※2 2015年度募集停止  
 ※3 2016年度募集停止  
 ※4 2017年度名称変更  
 ※5 建築学部総合への入学者2名を追加

教職員数推移

|           |  | (2017年5月1日現在 単位:人) |            |            |            |            |
|-----------|--|--------------------|------------|------------|------------|------------|
|           |  | 2013年5月            | 2014年5月    | 2015年5月    | 2016年5月    | 2017年5月    |
| 大学教員      |  | 227                | 222        | 224        | 230        | 231        |
| 中高教員      |  | 62                 | 57         | 61         | 64         | 65         |
| 職員        |  | 129                | 135        | 150        | 142        | 138        |
| <b>合計</b> |  | <b>418</b>         | <b>414</b> | <b>435</b> | <b>436</b> | <b>434</b> |

※大学教員：教授、准教授、講師、助教、特別専任、特任、学習支援センター、実習指導員  
 ※中高教員：専任教員(教諭)、嘱託専任講師  
 ※職員：専任職員、嘱託職員(学生職員は含まない)

(2018年3月31日現在)



(2018年3月31日現在)

- 理事長 後藤 治
- 常務理事 玉川 雅之
- 理事 望月 肇
- 理事 三重野 浩
- 理事 佐藤 光史 大学学長
- 理事 鷹野 一郎 大学副学長
- 理事 平方 邦行 附属中学・高等学校校長
- 理事 島崎 勉 非常勤理事
- 理事 田中 英生 非常勤理事
- 監事 橋爪 毅
- 監事 長谷川 努
- 監事 松本 香

- 理事定数：6人以上9人以内
- 理事現数：9人
- 監事定数：3人
- 監事現数：3人

寄附行為の変更に伴う経過措置について

2016年12月1日の「学校法人工学院大学寄附行為の変更」に伴い、監事の定数が2人に変更されました。2017年6月1日時点で在任している監事は、寄附行為附則に基づき、2017年度決算及び事業報告に関する評議員会が終結する時まで、任期及び職務を継続します。

次に掲げる定数33人の評議員をもって評議員会を組織している。ただし、(4)に掲げる者が(4)の役職を兼務するときは、評議員の定数は33人から兼務数を減じた数とする。

- (1) 専任の教員、職員のうちから 10人
- (2) 満25歳以上で本法人の設置する学校及びその前身である学校の卒業者のうちから 10人
- (3) 有識者のうちから 10人
- (4) 大学後援会、高等学校PTA、中学校保護者の会の各会長 3人

- 評議員現数：32人 (2018年3月31日現在)
- ※ 高等学校PTA会長と中学校保護者の会会長は、兼務のため、減数。

校地の所在地 キャンパスと施設

■ キャンパス紹介

新宿キャンパス

6,414㎡  
〒163-8677  
東京都新宿区西新宿一丁目24番2号

(収益事業) エステック株式会社  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号



八王子キャンパス

235,991㎡  
〒192-0015  
東京都八王子市中野町2665番地1 (犬目キャンパス)  
〒193-0802  
東京都八王子市犬目町139番地



附属中学校・高等学校

23,209㎡  
〒192-8622  
東京都八王子市中野町2647番地2



■ その他施設

富士吉田セミナーハウス

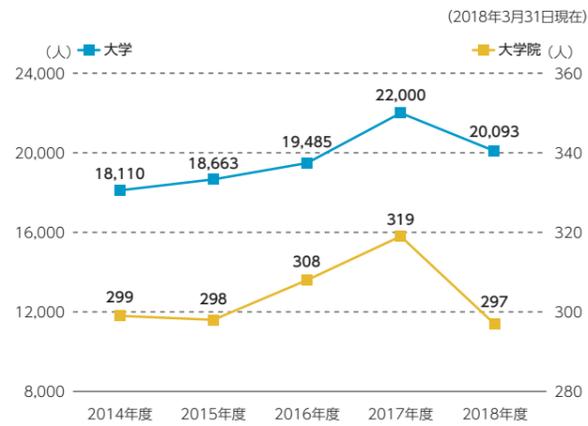
〒403-0006  
山梨県富士吉田市新屋1311-1

軽井沢学寮

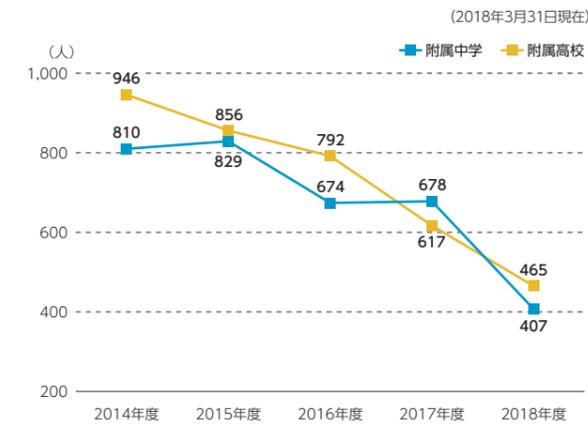
〒389-0100  
長野県北佐久郡軽井沢町三笠2448

志願者数(推薦を含む)

●大学・大学院

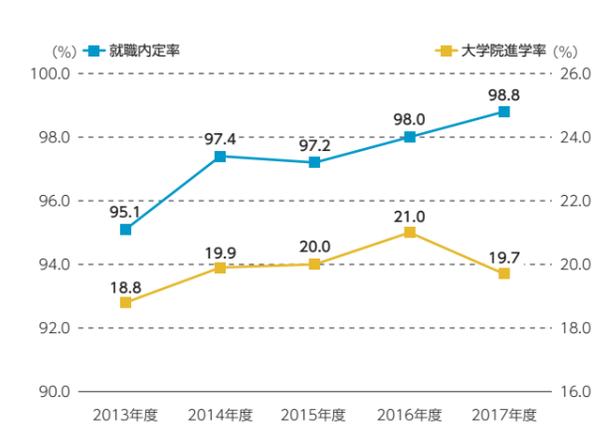


●附属中学校・高等学校

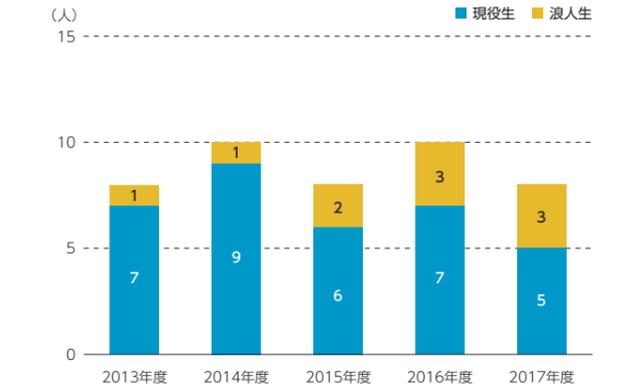


卒業後の進路

●大学・大学院



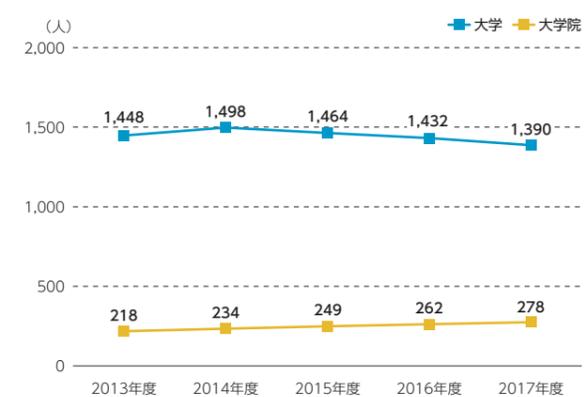
●附属中学校・高等学校  
＜国公立大学合格者数＞



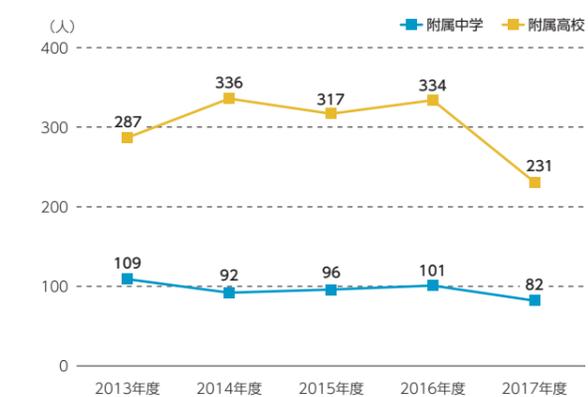
※就職内定率=内定者数/就職希望者数(第2部を除く)  
※大学院進学率=大学院進学者数/学部卒業者数(3月卒業者、第2部を除く)

入学者数(編入学者を除く)

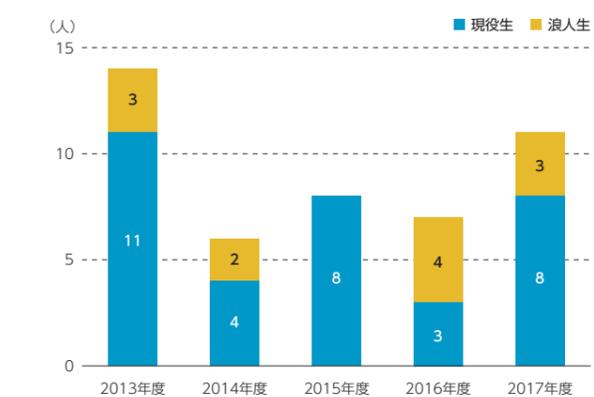
●大学・大学院



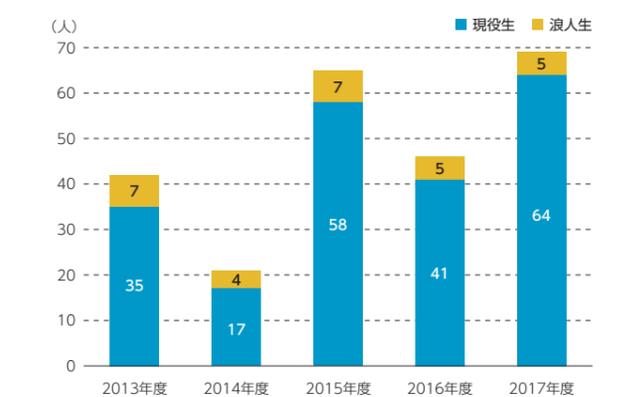
●附属中学校・高等学校



＜難関私立大学\*合格者数＞



＜GMARCH\*合格者数＞



\*早稲田、慶應義塾、上智、東京理科、ICU

\*学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政

国際交流の状況

●大学・大学院

|                     |    | (単位:人) |        |        |        |        |
|---------------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
|                     |    | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
| ハイブリッド留学            |    | 21     | 75     | 81     | 86     | 105    |
| キャンパス・アテンディング・プログラム |    | 19     | 28     | 26     | 42     | 29     |
| 留学生の受入              | 国費 | 1      |        |        | 2      | 8      |
|                     | 私費 | 20     | 35     | 39     | 33     | 30     |
| 合計                  |    | 21     | 35     | 39     | 35     | 38     |

●附属中学校・高等学校

|           |    | (単位:人) |        |        |        |        |
|-----------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
|           |    | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
| 海外研修プログラム | 中学 | 83     | 112    | 103    | 107    | 112    |
|           | 高校 |        | 43     | 34     | 67     | 32     |
| 合計        |    | 83     | 155    | 137    | 174    | 144    |
| 留学生の受入    | 中学 |        |        |        |        |        |
|           | 高校 |        | 1      | 6      | 6      | 3      |
| 帰国生の受入    | 中学 |        |        | 15     | 11     | 17     |
|           | 高校 |        |        | 3      | 5      | 5      |
| 合計        |    | 0      | 1      | 24     | 22     | 25     |

外部資金獲得状況(決算額)



※百万円未満四捨五入



学校法人 **工学院大学**

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1丁目24番2号

電話 03(3342)1211(代表)

URL <https://www.kogakuin.ac.jp/>